



令和元年 7月 14日（日）尾西生涯学習センターにて  
 「くすりの正しい飲み方：くすりと安全に安心して付き合う」  
 「くすり教室：実験講座」を開催。

共催：特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構（NPO J-DO）  
 一宮薬剤師会

名城大学薬学部では出前講義の一つとして、高齢者や小学生にも「くすり」のことを知ってもらう授業や体験実験を特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構（NPO J-DO）の協力の下、名城大学 Enjoy Learning プロジェクト（通称：Eプロ）の薬学生と共に行っています。Eプロとは、大学が課外活動を支援する事業「Enjoy Learning プロジェクト」の通称です。

一宮市薬剤師会会長 濱崎光哲先生、理事 原 明美先生、一宮市市長 中野 正康様および一宮市教育委員会教育長 高橋 信哉先生のご尽力により、一宮市薬剤師会、一宮市教育委員会との共同企画として、令和元年 7月 14日（日）、尾西生涯学習センターにて「くすりの正しい飲み方：くすりと安全に安心して付き合う」「くすり教室：実験講座」を下記の内容にて開催しました。午前中には名城大学薬学部 野田幸裕教授、間宮 隆吉准教授（NPO J-DO 理事）およびおくすり 110 番のメンバー（9名）が、一宮市 薬剤師会の薬剤師（19名）に対して講義内容や実験手順の説明を行いました。当日は、小学生 3～6 年生 123 名が「くすり」について学び、「くすりについて知らなかったことを知ることができて良かったです。」と大好評でした。Eプロの活動としては今年度、第 1 回目でした。なお、当日の様子は NHK のテレビニュースに取り上げられました（添付参照）。

制作：名城大学薬学部 病態解析学 I・E プロ（中村真理子、武藤利奈、佐治凧帆、野口健、野田幸裕）、衛生化学・E プロ（河西初音）、薬品作用学（間宮隆吉）



——— 尾西生涯学習センターにおける「くすり教室」 ———

日時：令和元年 7月 14日（日）14 時 00 分～16 時 00 分

場所：尾西生涯学習センター6 階大ホール

内容：

・「実験を始める前のお話」：Q&A 方式

くすりをどのように飲んだら良く効き、副作用を防ぐことができるか、Q&A 方式で小学生が答える、児童参加型で行いました。一宮薬剤師会の川合 綾子先生がスライドを使ってわかりやすく説明し、小学生が元気で挙手して活発に問い掛けに答えてくれました。



・「体験実験」

内容をより理解できるように小学生は、学年毎に 21 班（1 班 5～7 名）に分かれ、一宮市薬剤師会の薬剤師および薬学生（病態解析学 I・E プロ 6 年生 4 名、5 年生 4 名、衛生化学研究室アドバンスト学生・E プロ 1 名）の補助・解説を受けながら 体験実験を行いました。「カプセルが指にくっつくのが面白い！」「くすりの色が消えちゃった！」と興味深々で実験に参加していました。

<実験項目>

1. コップ一杯の水かぬるま湯で「くすり」をのむのはなぜ？
2. 水がなくても飲める薬があるのを知ってる？
3. 「くすり」を「お茶」で飲むとどうになってしまうの？
4. 「うがいぐすり」でうがいした後に、すっぱい食品を食べるとどうになってしまうの？

# 一宮 児童が薬の正しい服用学ぶ

07月14日 19時35分



小学生たちが薬の正しい服用方法などを学ぶ教室が、愛知県一宮市で開かれました。

この教室は、子どもたちに薬の正しい服用方法を知ってもらおうと一宮市の薬剤師会などが開いたもので、市内の小学生およそ120人が集まりました。

この中で、薬剤師らが、クイズ形式で薬を飲んだときの副作用への対処法などを出題すると、子どもたちは次々と手を挙げて自分の意見を発表していました。

また、実験のコーナーでは、うがい薬を溶かした黄色い水の中にビタミンCを入れると透明になることを確認し、飲み合わせによっては薬の効果が下がることを学びました。

参加した小学3年生の女子児童は「うがい薬の中にビタミンCを入れたら透明になってすごかった。きょうは、色々と分かったことがあってとても面白かった」と話していました。

一宮市薬剤師会の濱崎光哲会長は「子どもたちにはきょう学んだ薬の正しい服用方法を家で家族や友達に教えてあげてほしい」と話していました。